



支部活動トピックス(4~6月)

平成28年度支部総会で、支部新役員を選出。第88回機器・部品メーカー懇談会で、自動車、住宅等の成長分野を含め、最新の情報を提供。

平成28年度関西支部定時総会

関西支部では6月1日(水)に大阪新阪急ホテルで、平成28年度定時総会を開催しました。

最初に長榮周作 支部長(パナソニック(株)会長)より挨拶を行いました。「わが国経済は引き続き緩やかな回復基調ながら、新興国の下振れ懸念や為替の動向等、不透明感が増しております。8月にはリオ五輪が行われますが、日本選手の活躍で盛り上げていただくと共に、4年後の東京大会で世界最高の安全・安心、おもてなしを実現できる様、IT・エレクトロニクス産業として取り組んでいきたいと思えます。私は、一昨年の総会で支部長に就任後、部品メーカートップの皆様によるアジア各地へのミッション派遣や年2回の機器・部品メーカー懇談会等、グローバル市場と成長分野の把握に努めて参りました。また、イノベーションに向けた技術セミナーや環境関連の動向を紹介する環境セミナーにより情報発信に力を入れると共に、JEITA関西講座やものづくり教室等、人材育成の活動も充実を図りました。JEITAの28年度事業計画はCPS/IoT社会実装の推進を重点事業に掲げています。地域の活性化やベンチャー企業との連携において、支部も役割を担えと存じます。2年間にわたり皆様にお世話になり、有難うございました。」

次に、長尾尚人 専務理事より第6回JEITA社員定時総会について報告を行いました。「東原敏昭 会長((株)日立製作所 社長 兼CEO)、長榮周作 筆頭副会長をはじめとする役員が選出されました。28年度はCPS/IoTの社会実装推進を活動の中核に据え、研究開発税制の維持・

拡充、規制・制度改革、税制改正要望、データ利活用のルール作り、セキュリティの確保等、事業環境の整備に取り組みます。異業種、ベンチャー、海外企業との連携・協調を促進すると共に、CEATECもCPS/IoT Exhibitionとして進化・発展させて参ります。」

続いて、小西ゆかり 事務局長より、27年度の支部活動について、運営部会や機器運営委員会における講演・見学、部品運営委員会によるタイ・ミャンマー開催や機器・部品メーカー懇談会、さらに、技術セミナー、環境セミナー、人材育成等、各委員会の取り組みを中心に報告しました。28年度は、地域活性化の取り組みとして、ベンチャー企業等との連携に力を入れると共に、事業環境の整備、グローバルマーケットの把握、調達や人事・労務等における社会的課題の解決に向けて進んでいきます。

次に、任期満了に伴う支部役員の改選を行いました。宮部義幸 運営部会長(パナソニック(株)専務)を議長に、水島繁光 支部長(シャープ(株)会長)、長榮周作 副支部長、長谷川祥典 運営部会長(シャープ(株)専務執行役員)の支部役員、及び支部運営部会委員会社30社を選出しました。(なお、支部長は6月23日付で野村勝明氏(シャープ(株)副社長)に交代しております。)

続いて、水島新支部長より就任の挨拶を行いました。「長榮前支部長には、2年間にわたり支部運営にご尽力賜り、誠に有難うございました。私は、昨年度にJEITA会長を務め、CPS社会実装タスクフォースの設置、CEATECでのNEXTストリート出展、地域活性化百選第2弾の発行、ベンチャー賞の創設等、CPS/IoTの社会実装に向けて取り組みました。実装推進のベースは、部品・デバイスから機器、ソリューションに至る高度な応用にあります。関西支部には、多くの有力メーカー様に

参画いただいております。各社の強みを連携させて、新たなCPS/IoTビジネスを打ち出す大きなポテンシャルがあります。支部会員が事業領域を越えて一致団結し、課題への対応と新たなビジネス創出に取り組める様、引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い致します。」

最後に、関 総一郎 近畿経済産業局長、松崎和義 NHK大阪放送局副局長より祝辞をいただき、終了しました。



長榮支部長ご挨拶



水嶋新支部長ご挨拶

第88回機器・部品メーカー懇談会

支部・部品運営委員会では6月8日(水)にホテルグランヴィア大阪にて第88回機器・部品メーカー懇談会を開催しました。

最初に村田恒夫 委員長((株)村田製作所社長)より挨拶がありました。「今年に入り中国経済の減速、原油価格の下落で、株価は大きく下がりました。マイナス金

利で金融が混乱、円高で国内への投資も鈍っています。スマートフォンに頭打ち感があり、業界の牽引車が見当たらない状況の中、従来は民生分野の講演がメインでしたが、今後は車、エネルギー、ヘルスケアにも注目して行きます。本日は、家電に加え、自動運転やスマートハウスのお話しも伺い、踏み込んだ議論を行いたいと思います。」

報告の概略は次の通りです。

「白物家電業界の動向と展開」パナソニック(株)

4つの視点(①イノベーション、②デザイン、③「空間」の提案、④顧客との多様な接点を開拓)を重視し、マーケティングも世代毎にきめ細かく展開しています。今後の方向性として、ロボティクス+AI技術による「任せられる家電」や、正確なセンシングに基づく「健康維持へのお役立ち」商品、さらには住設と家電の相乗効果による住空間の提案を進めて行きます。新たなデバイスや素材・工法、またリスクに強いSCMの実現について部品メーカー様と連携を強化したいと考えます。

「薄型TV関連(4K・8K等)業界の動向と展開」シャープ(株)

世界のTV需要は2020年に向けて緩やかに伸長、同年には4Kが44%を占めるでしょう。最近、輝度情報を幅広く記録し奥行きや質感を細やかに再現するHDR(ハイダイナミックレンジ)が注目されています。コンテンツの高精細(4K/HDR)化はネット配信から放送に伝播し、今後は、高度化BS(4K/8K)放送の開始による新たな需要創造が期待されます。ハイレゾ対応等、高音質化の取り組みも進んでいます。ネット環境の進化に伴い、オープンプラットフォーム化、クラウドの充実、センサー/UIデバイスの活用、IoT機器との連携等により、新しいTVの世界が広がって行きます。

「自動運転の取り組み」日産自動車（株）

モビリティ事業の持続的発展には4つの課題（エネルギー、地球温暖化、交通渋滞、交通事故）があり、解決に向け「電動化」と「知能化」を迫っています。自動運転は「知能化」の一つで、①安全、②ストレスフリー、③フリータイムの実現、をもたらします。「セーフティ・シールド・コンセプト」（車が人を守る）を掲げ、「2020年までに日産車1万台当たり死亡・重傷者数を95年比1／4、将来的に限りなく0に近づける」ことをめざしています。予防安全・運転支援には90年代から取り組み、多くの技術を世界に先駆けて提供して来ました。近々に単一レーンの自動走行を商品化、18年には高速道路（車線変更）、20年には一般道（交差点）へと段階的に進めて行きます。

「スマートハウスの取り組み」積水ハウス（株）

「住まいから社会を良くする」をモチベーションに、「SLOW & SMART」（家が勝手に省エネ・発電）を掲げてスマートハウスに取り組んでいます。2009年から展開し、15年までに累計75,900棟を供給しました。新築戸建のCO₂排出は90年比で7割削減、購入者の4人に3人から「お得」と評価いただいています。「省エネ・発電のために家を建てる人はいない」ので、瓦型ソーラーパネルを用いた美しい家づくりを迫っています。HEMSが提供する生活情報の家庭向けパーソナライズに努め、また、メーカーの区別なくデータを蓄積・使用できるプラットフォームを構築しました。社会の高齢化が進む中、バイタルセンサーによる見守りや、マイクロEVやロボティクスによる歩行・移動支援にも取り組んでいます。

「電子部品業界の動向と取り組み」オムロン（株）

グローバルの電子部品需要はスマートフォン、車載、エネルギー関連の拡大で増加しているが、家電の伸び悩

みもあり率は鈍っています。日系メーカーのシェアは維持ないし微減で、中長期的なポジション確保が課題となります。環境、安全、快適等、社会のニーズ実現に寄与する部品が求められます。当社のデバイス事業は、出発点であるリレーからスイッチ、コネクタ、センサ等、幅広い製品を提供し、近年はEV関連、パワーコントロール、エネルギーマネジメント向けの取り組みを強化しています。（最後に特殊な微細加工技術により、疑似光源を集めて立体視を実現する「空間投影技術」が実機デモにより紹介されました。）

いずれも興味深い内容で、発表毎に活発な質疑応答が交わされました。



村田委員長ご挨拶



発表の様子



「空間投影技術」デモ